

令和6年 飛来山靈山寺

# 秋のライトアップ

期 日：令和6年11月22日(金)～24日(日)

時 間：17時から21時まで

入場料：無料(24日の演奏会は入場料が必要です)

駐車場：無料25台(24日は17時よりセラピー駐車場から送迎あり)



山門前



仁王門横

が が く てん だ い し ょ う み ょ う ゆ う  
特別企画 雅楽と天台声明の夕べ

かんのんじょうど いざな  
～観音浄土への誘い～

日時 令和6年11月24日(日)18時～

会場 靈山寺本堂前庭(雨天の場合は中止)

演目 雅楽 蓬萊雅楽会(大分市勢家町)

管絃：壺越調調子 胡飲酒破 平調音取 陪臚 太食調音取 抜頭

舞楽：陵王(小乱声 陵王乱序 沙陀調音取 当曲 安摩乱声)

天台声明 靈山寺住職 高橋文英

散筆(上段) 九條錫杖(一條) 諸天漢語讚 六種回向

入場料：1,000円



[主催 問合せ] 飛来山 靈山寺 TEL 097-541-0162

## 飛来山靈山寺の由緒

和銅元年(708)に開山した十一面観音菩薩が本尊の天台宗寺院。寺伝によると、植田荘の豪族である田尻祐世が夢告を受け、山中から十一面観音菩薩像を発見し庵を建ててお祀りしたのが始まり。

お釈迦様が法華経を説かれた靈鷲山の姿に似ていたため、インドから渡来した那伽法師が「靈鷲山が飛来したのではないか」と驚いたことから、山号を飛来山、寺号を靈山寺とした。

平安時代には天台宗の開祖である伝教大師最澄、鎌倉時代には源頼朝の弟である源範頼などが来山、室町時代には室町幕府將軍である足利尊氏より土地が寄進されたと伝えられる。また歴代大友氏の庇護を受け、隆盛を極めるが、豊薩の乱(1586~1587)で合戦地となったため伽藍の多くが焼失してしまう。

江戸時代には福井から大分に移り住んだ徳川家康の孫にあたる松平忠直(一伯公)が靈山寺を再興し、本堂・山門・鐘楼・梵鐘が寄進され現在にいたる。山門は松平忠直の寄進から現存する建造物とされ、大分市の文化財に指定されている。



▲松平忠直寄進の山門



▲紅葉を迎える仁王門

## 雅楽について

雅楽は千二百年以上の歴史を持ち、日本古来の儀式音楽や舞踊などと、仏教伝来の飛鳥時代から平安時代初めにかけての四百年間あまりの間に中国大陸や朝鮮半島から伝えられた音楽や舞、そして平安時代に日本独自の様式に整えられた音楽。奈良時代・平安時代から雅楽の演奏は宮廷や寺院・神社において盛んに演奏されるようになった。

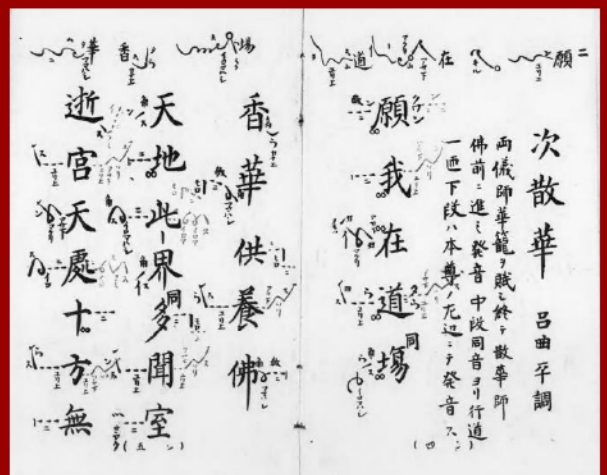
そして千年以上、京都・奈良・大阪の専門の演奏家によって伝承され続け、明治時代に宮内庁式部職楽部が創設され、現在に雅楽を伝承している。



▲宮内庁式部職楽部による管絃演奏

## 天台声明について

声明とは法要儀式に際し、经文や真言に旋律抑揚を付けて唱える仏教声楽曲。伝教大師最澄が中国(唐)に渡り天台の教えを伝えたおりに声明も伝えられたが、これを体系的に伝えたのは第三代天台座主の慈覚大師円仁。その後、良忍により京都大原に声明の道場(魚山)が開かれ、ここを中心に天台声明は伝承されてきた。平安時代には声明と雅楽・舞楽との合奏曲も作られ、浄土信仰とも重なり盛んに奏された。



▲天台声明「散華」の墨譜(一部)